

【考察及び、次年度に向けて】

生徒のアンケート結果から、前年度に比べて「先生方や友達に元気なあいさつができる」と考えている生徒が増えていました。

また、「学校に仲の良い友達がいる」の問いには、ほぼ100%に近い生徒がいると答えています。学習に関しては、「適切に評価されている」という項目が、前年度に比べて高くなっています。わからないことは先生や友達に聞くことができる生徒は90%近くおり、教師と生徒の関係性や、生徒同士の関係性の良好さも感じられます。しかし、前年度同様いじめに対しては、「いじめやからかいをせず、見て見ぬふりもしていない」という項目には、若干ではありますが、肯定的な回答が下がっています。この結果は真摯に受け止める必要があります。わずかな下落も事実として危機感をもち、「いじめは学校全体で許さない」ということを絶えず生徒に言い続けるとともに教職員も意思統一を図ります。そして、道徳教育の要でもある道徳科の授業を大切にし、学校全体で取り組んでいきます。

また、校内相談機関であるSCに対しては、「相談しづらい」と回答している生徒が前年度より減っています。令和7年度より、SC室を整備し、より相談しやすい環境を整えたので生徒たちのみならず、保護者の方にも活用していただけるように周知を徹底します。

保護者の方のアンケート結果からは、学習指導に関して肯定的な意見を多くいただきました。ただし、学校からのお手紙や文書が保護者の方に十分に届いていないという事実が露呈しました。この課題にはすぐに解決すべく、学校メールを効果的に取り入れ、柔軟に対応していく手立てをとりました。生徒の評価とは一致していない項目が複数あり、保護者の方の感じ方、生徒の感じ方には差異があることも分かりました。学校と家庭、保護者との連絡等をもっと積極的にかつ、丁寧に行う必要があると考えられます。保護者の方からの要望で、個人面談や保護者会の回数についてご意見をいただきました。学校の年間計画を見直し、個人面談や保護者会等の機会を増やしていきたいと考えております。

地域連携については、本校の校庭を使用して地域の夏祭りが今年度も開催されました。多くの生徒が参加するとともに、本校の教職員も見回りとして参加させていただきました。また、体育館では敬老会が行われ、本校の合唱部が歌を披露する等、地域の方に支えていただくとともに、保護者の方のご理解をいただきました。そして何より、コミュニティ・スクールを活用し、1年生の家庭科の授業では、ボランティアの方を招いて、浴衣の着付け体験が行われました。生徒が使用した浴衣は、すべて地域の方からの寄付によるものです。コーディネーターの方、PTA役員の方々のご協力、ご尽力の賜物だと感じております。そのようなことの背景があったからこそ、昨年度より新たに評価項目として追加させていただいた、「学校との連携」の評価がどれも高い数値であったのだと思います。

学校運営協議会委員の方々からは、どの項目に関してもすべてお褒めの言葉をいただきました。特に嬉しかったことは、地域でも本校の生徒が元気に挨拶をしているということです。来年度も、地域や保護者の方に信頼され、ご協力いただけるような学校を作つてまいります。

